



神奈川県東ロータリークラブ

KANAGAWA EAST ROTARY CLUB

2016-2017年度 第22週報 No. 1958 2016年(平成28年) 12月9日 第1958回 例会記録 12月16日発行

本日〈12月16日〉のプログラム

- ◆ 斉 唱 「それでこそロータリー」
 - ◆ 献 立 味噌カツ御膳
 - ◆ 卓 話 「勝利至上主義から勝利追求主義への転換
～リオオリンピックから考える～」
- 横浜国立大学 教育人間科学部 教授 木村 昌彦 様
(紹介者 加藤 仁昭 会員)

<<本日のBGM>>
アルバム「HENRY MANCINI」より



PHOTO 加野亮一 会員

司 会 白鳥 厚夫 副幹事

点 鐘 植田 清司 会長

斉 唱 「我等の生業」
ソングリーダー 河野 明光 会員

四つのテスト 横溝 亘 職業奉仕委員長
(第1例会のみ)

ゲスト紹介 てじま晩秋 様 (ゲストスピーカー)

ビジター紹介

川崎RC	堀内 愛元 様	大久保公之 様
神奈川RC	樋口 明 様	
横浜ベイRC	澁谷 信男 様	前田 平俊 様
	近藤 一美 様	石川恵美子 様
	山本 悦子 様	楠 雅翔 様

誕生日祝 鴻 義久 会員 (12月10日)
山木 幹夫 会員 (12月14日)
朝日 達夫 会員 (12月14日)



2016-2017年度 RI会長 ジョン F. ジャーム



人類に
奉仕する
ロータリー

第2590地区 ガバナー 高良 明

会 長 植田 清司	会 計 白井 康夫
会長エレクト 矢野 修二	副 会 計 河野 明光
副 会 長 西山 潔	S A A 田中 龍太郎
副 会 長 伊東 英紀	副 S A A 茂木 知子
幹 事 小山市 康	副 S A A 吉田 隆男
副 幹 事 白鳥 厚夫	クラブ会報 加野 亮一

例会日 毎週金曜日 0:30 ~ 1:30 PM (第5金曜日 6:00 PM)
例会場 ホテルキャメロットジャパン
URL <http://www.kanagawahigashi.com/>
E-mail kerc@beach.ocn.ne.jp

事務局 ホテルキャメロットジャパン内
〒220-0004 横浜市西区北幸 1-11-3
TEL: 045-314-3900 FAX: 045-314-3555
創立記念日 昭和 51年 5月 29日

結婚記念日祝

大久保由美子 会員 (12月12日)



会長報告

植田 清司 会長

- ・ R財団より、2015-16年度「End Polio Now : 歴史に1ページを刻もう」キャンペーンの感謝状が届いておりますのでご報告申し上げます。これはポリオプラス基金に\$1500以上の寄付を行ったクラブに贈られるものです。
- ・ ボーイスカウト神奈川連盟より、第35回チャリティゴルフ大会協賛のお礼状が届いておりますのでご報告申し上げます。

幹事報告

小山 市康 幹事

- ・ 本日、例会終了後に12月度定例理事会を開催致します。
場所 3F ナイト
- ・ 第1回「日本RYLAセミナー」のお知らせと受講生推薦の案内が届いておりますので回覧致します。
日時 3月24日～26日 場所 トヨタ労連研修センター
- ・ 2月18日～19日に横浜市野島青少年研修センターにて開催される2590地区RYLAにつきまして、見学のご案内が来ておりますので回覧致します。

出席報告

但野真実子 出席委員長

会員総数	50名	(30+20)名	
出席会員数	34名	(22+12)名	
出席率	80.95%		
ゲスト	1名	ビジター	9名
前回補正後	93.48%	前々回補正後	88.64%

スマイルボックス

田中龍太郎 SAA

川崎RC 堀内愛元様 久しぶりにお邪魔します。飯田会員、よろしく。

川崎RC 大久保公之様 お世話になります。

神奈川RC 樋口 明様 本日は宜しくお願ひ致します。

横浜ベイRC 澁谷信男様 今回は初めて神奈川東ロータリークラブに伺いました。よろしくお願ひ致します。

横浜ベイRC 楠 雅翔様 横浜ベイRCの楠です。本日は宜しくお願ひ致します。山本芳弘様、本日はよろしくお願ひ致します。

横浜ベイRC 近藤一美様・前田平俊様・山本悦子様・石川恵美子様・澁谷信男様 ベイロータリー6名でメーキャップツアーにお伺ひ致しました。宜しくお願ひ致します。

山木幹夫君 誕生日祝い、ありがとうございます。遡ること39回目を頂きました

大久保由美子さん 結婚記念日12月12日で22年目になります。ありがとうございます。

植田清司君 こじま晩秋先生、ようこそおいで頂きました。本日の卓話、楽しみにしています。

富居利貞君 本日は大勢でお伺ひします。よろしくお願ひ致します。

石川正三君 本日の卓話は、てじま晩秋先生です。ご清聴のほどを・・・。

月山 勇君 てじま晩秋先生、ようこそ。ご指導のほど、宜しくお願ひ致します。

江森国一君 山本先生、色々ご無理なお願いをして申し訳ありません。宜しくお願ひ致します。

河野明光君 昨日の第一テーブルミーティングでは、森永マスター、素晴らしい進行でした。

加藤仁昭君 ベイRC 近藤会長はじめ皆様、ようこそ。

飯田泰之君 川崎RCの大久保様、堀内様、ようこそいらっしゃいました。

白鳥厚夫君 昨夜の第一テーブルミーティング、活発でしたね。

12月9日	17件	44,500円
本年度累計		946,368円

「川柳の楽しみ方、作り方」

全日本川柳協会 常任理事 てじま晩秋 様
(紹介者 石川 正三 会員)



★ 老人は死んで下さい国のため 宮内可静

我が国唯一の川柳総合雑誌「オール川柳」25年程前の、時事川柳欄での天位（特選）句であります。発表後、全国版の3大新聞（朝日、毎日、読売ですね）や各メディア等で賛否両論、というか激論が走りまして、各種養老院はじめ（現在で言いますと老人ホームですね。）……沢山の福祉団体からの猛烈な抗議が連日殺到した、等の「経緯を踏まえての考察」を表明したいと思います。

川柳作家以外の方が、この川柳を一読したならばまず、最初に「なんと酷いことを言うのだ！」と思われて絶句されることでしょう。

事実、当時のあちこちのマスコミはじめ養護関連の職員各位からは「年寄り死んでくれ…とはなんと言うことか」「こんな気遣いみたいな句を作るのが川柳なのでしょうか。そんな文芸なら私、今日限り川柳を止めます」等々炎上～また作者のご自宅にも郵便物、電話で賛否の言葉がバラバラと押し寄せたそうです。とにかく喧々諤々～大変な騒動でした。

この句の作者は雅号を「宮内可静」さんと言いまして、大正10年生れの方で東京都渋谷区に在住でした。ご存命ならば、95歳をゆうに越えておられる方です。

可静さんが20代の頃、早稲田大学の学生でありました。昭和10年代後半の青春時代は、太平洋戦争…所謂、第二次世界大戦の末期でした。

可静さんは何時の間にか「学徒動員」と称された軍隊に入隊、つまり帝国軍人となったのです。教練等指導の上官から常々「おまえ達はお国のために、立派に死んでこい！」と、連日厳しい教育訓練を受けていました。

事実、連日のように、幾人かの学友が「天皇陛下万歳」の下、奮の内に散って逝きました。可静さん達、同期の学徒動員の皆さんは何時も「すべて、お国のためだ」「明日は俺たちの番だ。堂々と散ってくるんだ」と覚悟していたそうです。

やがて「その出撃がもうそこに来たのだ～と感ぜられるという時に」終戦となり、（8月15日ですね。）その数日後には、混乱の世の中に放り出されました。

好んで軍人になった訳ではないのに、若き敗残兵の姿は、あちこちで邪魔者扱いにされました。毎日、食うものも食えずの状態必死に生きて来ました。そんな経緯の中、やっと就職をして一生懸命に仕事をして定年になり、二度目の職どころか三度目もこなして、やっと年金を貰える立場、環境になったら、お国は自分たち年寄りを、邪魔者扱い～にしているとしか思えぬ政策の数々。唯々、苦勞、落胆の毎日であったそうです。

可静さんは「晩秋君よ～俺は好きでというか、学徒動員から始まった、世の中への恨み辛みで、あの句を作ったのでは、決してないのだよ……。今の世の中の方々は、わからないだろうけど、～戦争が終わって50年近くも経過した世の中なのに、俺

達の立場等、世間に理解されることは、大変難しいことだったのだよ」言っておられました。

そんな事がありまして、宮内可静さんは～「老人は死んで下さい国のため」この句について、強烈な反対意見の人たちと～直接、幾度も対談や討論をしました。「つまり今の時代の政府のやっていることは、俺たち老人に、死んでくれと言っているのに等しいのだ」と主張した可静さんに、同年代の殆どの方が～逆説として、わかってくれたとか。良かったです。

その後、可静さんは「この騒動、考えてみれば人生最後が近くなってから、いい経験の数々だったかも知れない。勉強させられたのかも。でも、悲惨な戦争中の苦しい経験を経て、俺は涙なんか、簡単に流せない人間になってしまったのだよ。」と静かに語っておられました。可静さんは達観されておられたんですね。

この句が発表された当時、宮内可静さんは70代半ばでした。そして僕としては50歳前半でした。まだ年寄り、つまり～老人には遠い、若輩の僕がその頃というか、その時に、この句を作ったならば、それこそ、高齢者への誹謗中傷、いや虐待の句として、大変な騒ぎとなったであります。…そんな経緯もあり、当時の川柳界においては、なんとしても、大変難しく、ショッキングな騒動でした。

○ 老人は死んで下さい国のため

問題の句の発表誌「オール川柳」の時事川柳欄において、特選句（天位）ではなく、単なる前抜き、平抜き、つまり順位的に下の方の位置づけであったならば、これほどの社会問題にはならなかったかも知れません。

宮内可静さんが、最後に言われたお言葉がいつも心に残っております。

「晩秋君、今の日本は平和かも知れないが、余りにも呑気すぎる。冷静に過去の歴史を知り、明日の糧として捕え、確り生きて行って欲しい」

先輩柳人、宮内可静氏の名誉の為、本日お話し出来たことを感謝致します。

なお、本日のタイトルは「川柳の楽しみ方、作り方」となっていますが、持ち時間の45分前後では尻切トンボになります（最低2時間は要します）ので、ほんのさわりを簡条書き致しますので、皆様の参考として下さい。以下、読み上げてみます。

★ 何のために川柳をするのでしょうか。

～何を目標とするのか？

- ① 知的な趣味として充実した毎日を過ごす。
- ② 頭を使ってボケないようにする。

- ③ 友人、知人を得て交友関係を広げる。
- ④ 句会や大会に出席して気晴らしをする。
- ⑤ 自分の作品を多くの人に読んでもらう。
- ⑥ 今の自分の姿、今の時分の想いを表明する。
- ⑦ 自分の作品で読者を感動させる。
- ⑧ 生きてきた証として句集を出す。

★ 自分を観察する

～こころを動かす

川柳を始めて間もない人から「何を書いたらいいのかわからない」という声を聞く時があります。中級やベテランの中にも、「句ができなくなった」「発想の種が尽きた」と弱音を吐く人がいます。川柳は自分が感じたことや、想ったことを素直に五七五にまとめるだけでいいのですが、その、「感じる」とか「想う」という「こころの動き（感動）」の種は、変化に乏しい日常の中ではなかなか転がっていません。

句を作ろうという意識もなく、ぼんやりしている時などにポッカリ浮かんでくることがあります。そのような、作為なく生まれた句は案外と良いものですが、なかなかその「ポッカリ」が出てきません。

感動とかポッカリは自分の意思で生じるものではありませんから、いくら「感動がほしい」とか「ポッカリ浮かんで欲しい」と念じても、思い通りにはなりません。

待っていても動かないなら、自分で動かすようにしましょう。自分の意思で、こころに動きを生じさせる方法のひとつは「観察」です。周囲を注意深く見ることによって、何かを発見することが出来ます。その「発見」こそ、「こころの動き」そのものですから、見つけたことをそのまま忠実に書き写せばよいのです。

ここまで短い時間ながらお話し致しましたが川柳を尊敬（リスペクト）し、情熱を抱き続ける限り、いつまでも前進することができます。

一般参加者を招いての公開卓話



例会終了後に別室にて、てじま晩秋先生を囲み勉強会を開催

次回〈12月23日〉の予定

12月30日（金）⇒ 23日（金）移動例会「年忘れ家族会」

例会 4 回

11月度出席報告

名誉会員 出席率算出除外会員

会 員	メイクアップ後	ホームクラブ	会 員	メイクアップ後	ホームクラブ	会 員	メイクアップ後	ホームクラブ	会 員	メイクアップ後	ホームクラブ
青柳 紀	100	100	岡部雄一郎	75	75	月山 勇	100	100	横溝 亘	100	75
赤堀 和人	100	75	加藤 仁昭	150	100	角田 伯雄	75	50	吉田 隆男	125	75
朝日 達夫	50	50	金森 欣一	125	100	友添 辰哉	50	50	吉橋佐千男	0	0
天野 公史	100	75	加野 亮一	100	100	長井 章	75	75	我妻 隆邦	0	0
雨宮 和則	0	0	河野 明光	75	75	中野 真理	0	0	渡邊 淳	100	75
飯田 泰之	125	100	小山 市康	200	75	西山 潔	100	50	富居 利貞	0	0
伊澤 政宏	75	75	佐藤 勝彦	100	25	古澤 一憲	100	100			
石川 正三	75	75	澁谷 高弘	50	25	茂木 知子	100	75			
伊東 英紀	50	50	白井 康夫	50	25	森永 健	100	100			
岩澤 利雄	100	75	白鳥 厚夫	150	100	矢野 修二	150	100			
植田 清司	250	75	須永 久一	50	50	山本 幹夫	100	75			
江森 国一	150	100	田口健太郎	100	100	山崎 善也	25	25			
大久保由美子	50	50	但野真実子	100	75	山田 正憲	225	100			
鴻 義久	50	50	田中龍太郎	125	100	山本 登	100	50			
大橋 秀行	0	0	田邊 正彦	75	50	山本 芳弘	125	100			

月平均 88.49%